

日本沿岸域学会 研究グループ 研究計画提案書

平成 18 年 3 月 24 日

① 研究テーマ	外洋の「海辺づくり」、絶滅危惧種ハマボウフウの回復、防風林の里山利用						
② 目的	侵食に悩んだ千葉県九十九里浜北端の飯岡は、「安全」「自然」「憩い」をキーワードに「なぎさレフレッシュ事業」によって砂浜海岸の回復を果たした。この度の飯岡町の旭市合併記念として海辺の観光開発が提案され、住民や市民が中心となって「海辺づくり」に取り組もうとしている。外洋に面した海辺づくりは、都市部に面した内湾の取り組みより遅れているために、外洋の海辺の現状を観察・評価する手法を開発することが必要である。また、住民や市民が中心となって「海辺のつくり方」について討議し、人々が憩う「イベント広場」の利用や観光客の受け入れの仕方、施設について研究することを目標とする。						
③ 活動内容	外洋の海辺（九十九里浜、鹿島灘、銚子）について、海辺の歴史、文化や自然など現地踏査を通じて調査し評価を行う。評価方法は環境アセスメントの手法を取り入れ海辺の自然度、生物・生物相の特長、景観、アクセス、安全性、利便施設、海辺の利用度などについて評価する。また、海水浴やサーフィンなどを楽しむ人々・観光客よりアンケートをとり、アメニティの創出の提案をする。また、海岸植生に必要な砂浜幅や砂質、海岸勾配などを調査し生物多様性に必要な砂浜の確保を提案する。絶滅危惧種のハマボウフウの栽培をし、回復をはかる。防風林の松林を里山として手入れをし、松林を利用したアシタバ栽培をする。 外洋でも住民が中心となって里海づくりを始めている。これらの住民と一緒に「海辺のつくり方」について議論し、「外洋の海辺づくり」として報告書を取りまとめる。						
グループの構成 世話人 グループ構成員 顧問	氏名	会・非	専門分野	所属・役職	住所	電話番号	FAX番号
	平塚 四郎	会	海岸工学	東京大学大学院博士課程			
	渡辺 義美	非	地質学	レインボウプラン企業組合理事			
	須藤 彰	非	航空写真	レインボウプラン企業組合専務理事			
	米本 雅男	非	物理学、植生	写真家			
	鈴木 覚	会	海岸工学	海辺つくり研究会			
	廣瀬敏弘	非	観光協会	観光協会役員(飯岡)			
	川上 清	非	漁業	漁業協同組合			
	渡辺 耕平	非	環境安全	千葉科学大学			
磯部 雅彦	会	海岸工学	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授				
⑤ 日程表	研究期間	平成 18 年 6 月～平成 20 年 3 月		開催頻度	1 回/ 3 ヶ月程度の海岸調査を行い、随時研究会で討議する。		
	開催場所	旭市役所、海匝漁協、観光協会、レインボウプラン企業組合		⑥ 研究運営費			